客足も遠のいて、深夜のコンビニはひっそりとしている。店内にはアルバイトをしている私一人。そこに、ずいぶんと高齢のおじいさんが足早に入って来て、「携帯のカード置いてあるか」と尋ねてきた。何の商品のことか検討もつかず、携帯関連の商品をおじいさんに示しても、「違う」と言って憮然としている。仕方がないので商品がないと伝えると、「俺を煽てているのか！」といきなり叫び、レジの脇にあったハサミを振り回し始めた。

深夜のコンビニには、ホームレス風の格好をした人や、商品を買わずに数時間も店をうろつき回る人など、少し変わったお客さんがよく来る。対応にも慣れていたし、おじいさんをなだめつつ警察に通報をした。数分後に七人ほどの警察官が店になだれ込んできた。

「現逮！現逮！」という掛け声と共に、ハサミを持ったおじいさんは取り押さえられ、パトカーで連行されていった。

数日後、刑事さんに呼ばれて警察署に向か

った。当時の様子を防犯カメラの映像と共に教えて欲しいとのこと。おじいさんのことが気になっていたので、刑事さんに尋ねてみた。

すると、刑事さんは渋い顔をしながら事情を教えてくれた。「実は過去に何度も保護している人で。認知症がかなり進行していて、身寄りもいないんですよ」。

2025年には、高齢者の5人に1人が認知症を患っていて、それに伴い身寄りのない独居老人も470万人に達すると言われている。そのような社会問題があることは、もちろん知っていた。だけれども、私はおじいさんを単に変わった人だとみなしてしまった。他人だと割り切ってしまうと、彼らの存在には気づけない。あのおじいさんは、これからどうなるのだろうか。家族で解決することができない問題だからこそ、私のような他人が彼らの存在に気づかなければいけないと思う。もしまた深夜に来たら、「いらっしゃいませ」と言って、一言二言話をしよう。